

Central Chest Institute of Thailand

Thailand

中村裕昌 先生

現在タイの Central Chest Institute of Thailand に留学している中村裕昌と申します。JAYCS のブログを通じてタイでの留学の状況を皆様、特に留学に興味を持たれている方に発信していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

2016 年 4 月より研修を開始しました。立場としてはクリニカルフェローになるのですが、CCIT-IAIP (CCIT International Academic Institute Program) という留学生プログラムも立ち上げられており、これに沿ってタイの他施設の見学なども行われています (また今後ブログに載せていきます)。

CCIT は年間 1000 件前後の開心術に加えて、胸部疾患に対する治療を行っています。基本的に胸部疾患のみで基本的に腹部大動脈瘤や末梢血管に対する手術は行っていません。心臓大血管手術は小児の先天性、移植を除いてすべて行っていきます (大人の先天性疾患は行っていません)。ハイブリッド手術もあり TEVAR も行っていきます。TAVI は現在までに数例行われていますが、費用の関係からここ数カ月は行っておりません。スタッフは 8 名 (留学している先生含む) でレジデントは 3 名です。手術室は 5 つあります。レジデント数が少ないため、1 助手を看護師さんがすることも少なくありません。

勤務内容は ICU と手術室がメインになります。私は基本的に月曜日から水曜日まで Dr.Taweesak につき、僧帽弁形成術について学んでいます。木金曜日は他のスタッフの手術に入っています。5 月から 11 月までに約 200 件の手術に入っていますが、このうち約 6 割が僧帽弁関連手術になっています。ICU (14 床) では朝のうちに今日の指示を出した後、ラウンドが始まりその後手術に入ります。Dr.Taweesak が手術を行った日は基本的に泊りで ICU 管理を行います (週 3 くらい)。

私を知る限り、タイには現在日本から 5 名(私を含む)の先生が留学されています。施設により状況が大きく異なりますので、その先生方とも連絡を取りながら、役に立てる情報を発信できていたらと考えています。

研修を終えて

タイ (CCIT)に留学していた中村です。

21 日に 2 年間の留学を終えて帰国しました。温度差に戸惑いつつも体調を慣らしています。

今回が最後の投稿となります。

タイ (CCIT)で参加した手術は 576 件でした。うち、約 50%(289 件)が僧帽弁関連の手術で、40%(236 件)が僧帽弁形成術でした。形成術も約半数がリウマチ性 MS に対する形成術でした。

手術では執刀の機会はそれほどありませんでしたが、Dr.Taweesak からマンツーマンで指導を受け(決して楽ではありませんでした)、手術スキルは向上させることができたと思います。他のスタッフ、コメディカルの温かいサポートもありました。また、P.perier をはじめ多くの世界の top surgeon の手術を見る機会をいただきました。たくさんの友人、知人ができたことも幸せでした。

仕事以外では家族との時間が持てたというのがやはり有難いです。

心臓外科医において留学(永住ではなく、限定された期間)が必要かと聞かれると、決してそうではないと思います。留学にはお金もかかりますし、家族へかける負担も日本にいるのに比

べて大きくなります。何より留学するための資格取得(USMLE、IELTS など) のために時間を取られます。そしてそれらの資格が必ず取れて留学できるという保証はありません。さらに言うと留学後には他の医師、コメディカルからの評価が待っています。留学=成功ではなく、留学して戻ってきてからが本当の試練だと思います。それならば日本で師匠と仰げる医師を見つけその人の下で研鑽を積むというのもよい選択肢だと思います。

しかし心臓外科医としてではなく一個人として海外で生活するという事は、他文化を受け入れてその中で生活をしていくことは、人としての視野を広げるための良い手段だと考えます。